

宇都宮大学教育学部附属特別支援学校
「できる・分かる・考える」について

2019.3

◆大切にしたい授業作りの視点◆

本校では、平成23～26年度の研究（研究主題：「子ども一人一人が輝く学校作り」～本人・社会のニーズに応じたキャリア教育と教育環境～）において得られた、「大切にしたい授業作りの視点」を踏襲し、PDCAサイクルを丁寧に追った授業作りを現在まで積み重ねてきている。これらはキャリア教育の視点での授業改善から生まれたものであり、児童生徒の行動を支えている思いや願い、意欲といった内面に着目し、それらをより豊かに育てていくことで、目指すべき姿を引き出すことを意図するものである。

【大切にしたい授業作りの視点】

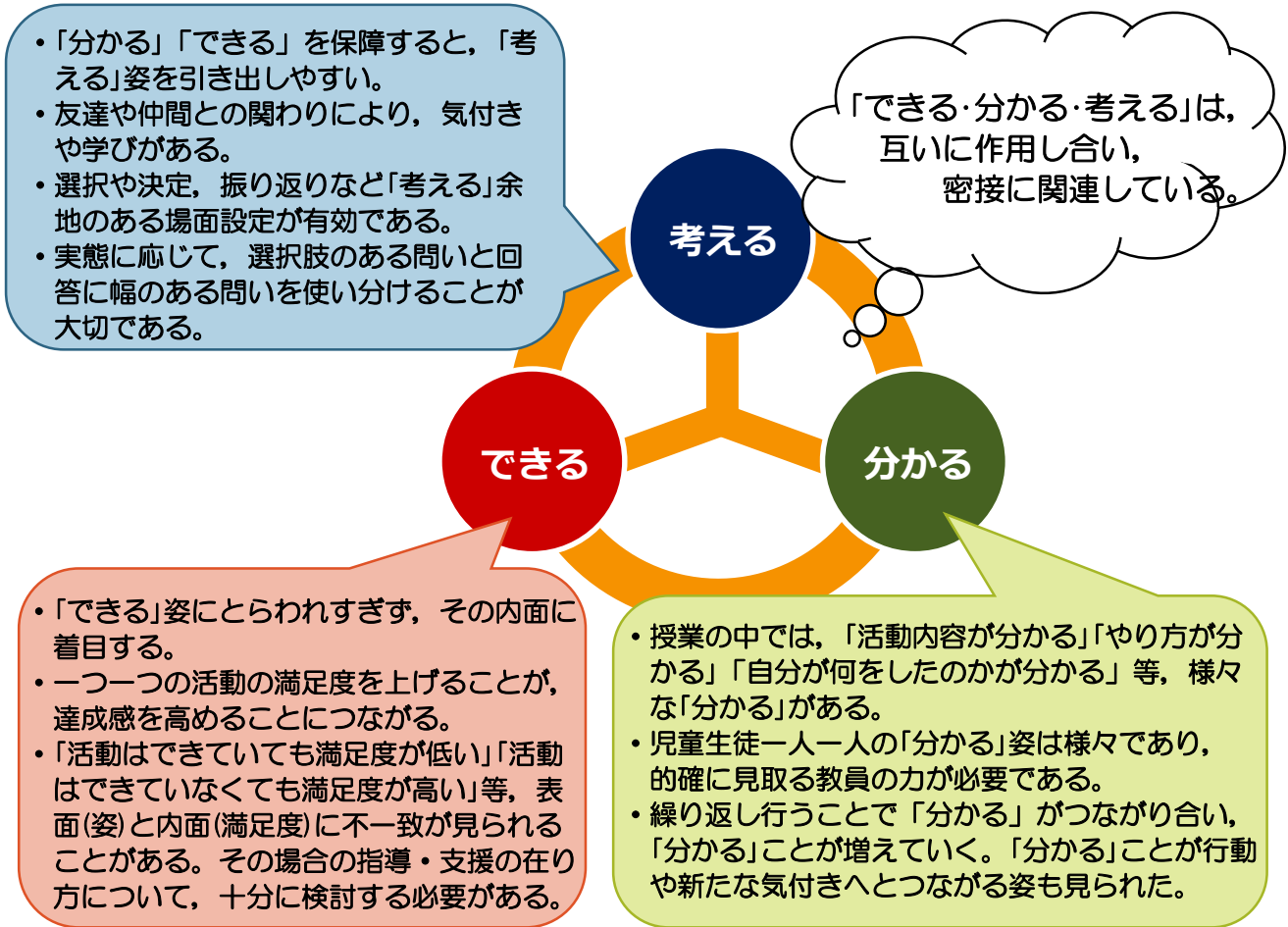
- 児童生徒の内面に着目すること
- 「できる・分かる・考える」授業を展開すること
- 自分自身の学びや成長を実感できること

なかでも、「『できる・分かる・考える』授業を展開する」という点は、内面に着目した授業作りの大きな柱として設定しており、「できた・分かった」経験が十分に積み上げられていくことで達成感を味わうことができ、豊かな社会生活を送る原動力となる自信や自己肯定感、自己有用感が高まると考えた。また、「できた・分かった」経験は「考える」ことの土台にもなる。そして、「考える」「思考する」「課題を解決する」という過程は児童生徒の内面を育てるための重要なポイントにもなるであろうと捉えた。

◆「できる・分かる・考える」の関連性◆

当初より「できる・分かる・考える」とは、互いに作用し合うものとして捉えていたが、改めてそれぞれは切り離せるものではなく、密接に関連し合っていることを確認することができた。さらに、「できる・分かる」が「考える」ことを支えていることも明らかになったことから、授業においては、「できる・分かる」ことを十分に保障し、その経験を着実に積み重ねていくことが重要であると言えよう。また、学習題材全体を構成する際にも、「できる・分かる」ことを目指す授業とそれらを踏まえて「考える」授業とを効果的に配置することも必要であろう。

授業にとどまらず、学校生活の様々な場面での「できる・分かる・考える」経験が有機的に結びつくことで、児童生徒の内面をより豊かに育てることや一人一人の学びを深めていくことができるものと思われる。



「できる・分かる・考える」の関連性